

# イワホリコツブムシ

# 水族館へ行こう!

## 京都大学白浜水族館



ハチの巣のような穴が開けられたイワホリコツブムシの巣の塊 (水槽番号401)



水槽に張り付けられたイワホリコツブムシとナナツバコツブムシの標本

1年ほど前「虫が侵食 消える無人島」というニュースがあったことを覚えておられるだろうか。瀬戸内海の本波島が、ナナツバコツブムシという動物によって穴だらけにされて、この数十年ですっかり小さくなってしまったという話である。コツブムシの仲間タンゴムシの親類で、甲殻類の中の等脚類として分類されるが、わずかに1センチほどの小さな生物が起こした大きな作用として、驚きをもたせて報道されたようだ。

# 島を浸食する虫

このように岩を穴だらけにするコツブムシは、田辺湾にも生息していて、

のを、富山市科学博物館長の布村昇さんが1994年に新種として命名、発表したものだ。ご両人とも京都大学瀬戸臨海実験所に大学院生として在籍された

る。両種とも砂岩や泥岩などの軟らかい岩を掘るだけでなく、水中の木材などにも穴を掘って生活している。また、イワホリコツブムシは、寿命が1年半から2年くらいであり、穴の中で、雄と雌が同居したり、雌が子どもと同居したりすることなどが分かっている。

瀬戸内海の無人島のことで大騒ぎをする前から、田辺湾ではよく調べられていたのである。(京都大学助教)

白浜水族館でも展示されている。「干潟の水槽」で穴だらけになった砂岩がコツブムシの巣の塊である。来館者に見てもらえるように、岩から取り出した標本も併せて展示している。ナナツバコツブムシとイワホリコツブムシの2種類である。イワホリコツブムシは、奈良女子大学の和田恵次教授が田辺市新庄町の内の浦で発見したも

ことがあ

和田さんの研究室では、この2種類の田辺湾における分布や、イワホリコツブムシの繁殖上の特徴などについて、詳細な研究が行われている。イワホリコツブムシはナナツバコツブムシよりも内湾の奥の方まで分布し、干潟に注ぎ込む川の河口にまで生息している。